

特集

新・好生館 誕生!!

# 地域医療 みんなで育てる

5月7日、地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館が佐賀市嘉瀬町にオープンした。最新の医療を提供する「最後の砦」として佐賀市民を始め、県民からの期待も高い。

モテモテさがでは好生館の現場で働く人たちにインタビューをした。看護師や図書館司書、ボランティアの方まで「地域医療」への思いを聞かせてもらった。また新好生館のいろんなトピックをコラム風にまとめた。

新病院は建物が出来たら完成ではない。まだスタートしたばかり。取材先で多く耳にした言葉だ。最新の機能をどう活かすのか。病院スタッフだけでなく、我々住民もまた育てる責任がある。



ここがスゴイ  
3  
新好生館

最新鋭の機械や設備



ハイブリッド手術室

積層ゴムアイソレーター

開頭手術と脳血管内治療が同時に行えるハイブリッド手術室を整備。県内唯一の、エボラ出血熱など第1種病原体に感染した患者を収容する「感染病床」を2床設置した。

県内初となる免震構造を採用。108本の積層ゴムアイソレーターで地震の揺れを軽減し、2種類のダンパーで地震力を吸収する。

屋上には太陽光発電パネルを設置。国土交通省の「平成22年度住宅・建築物省CO2先導事業」に九州地区で唯一採択された。1年間にスギ7万本相当の二酸化炭素削減効果がある。維持管理費は年間約5000万円削減。

ここがスゴイ  
4  
新好生館

アートで居心地よく



エントランスホール

エレベーターホール

印象的な外観は3種類のタイルをランダムに貼り合わせたもの。青磁をイメージしている。正面玄関の先には県産材をふんだんに使った広々としたエントランスホールがある。吹き抜けの高さいっぱいには設置されたスタンドグラスは六本木ヒルズ森タワーや東京国立博物館の作品も手がけた三浦啓子さんの作品。佐賀の四季を題材に光庭の4面を囲っている。佐賀北高書道部の躍動感あふれる書も病院内を飾っている。

病院内のエレベーターホールなどで眼をひくのが、扇形が乱舞する壁面。佐賀平野を渡る風をイメージして決められたという。診療科ごとにいろんな色が使われている。サイン計画は「氏デザイン」の前田豊さんが担当した。



++  
ICU看護師  
山本 晶子さん

「救命や生存率だけでなく、患者さんに社会復帰してもらうことが、地域に根差した病院の大きな役割だと思います。基本的に患者さんに、歩いて家族のもとへ帰っていたできるように適切な処置を心がけています」とICU看護師の山本晶子さんは好生館の役割を語る。ICUとは集中治療室のこと。呼吸、循環、代謝その他の重篤な急性機能不全の患者の容態を24時間体制で管理し、より効果的な治療を目的とする施設だ。

救命だけでなく社会復帰まで

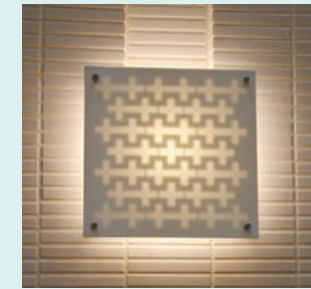
山本さんは看護師になってからICUひとすじ。好生館には3年前に入った。「1人で患者2人を見ます。同時に急変した場合は、自分がどう

救命や生存率だけでなく、患者さんに社会復帰してもらうことが、地域に根差した病院の大きな役割だと思います。基本的に患者さんに、歩いて家族のもとへ帰っていたできるように適切な処置を心がけています」とICU看護師の山本晶子さんは好生館の役割を語る。ICUとは集中治療室のこと。呼吸、循環、代謝その他の重篤な急性機能不全の患者の容態を24時間体制で管理し、より効果的な治療を目的とする施設だ。

新病院は全体的に広くなった。病床もこれまでの4床から8床に。最新の機械もそろった。設備も新しくなり、以前より静かになった。「患者さんは意識がない場合が多いので、モニターや全身の観察が重要になります。眼だけではなく耳や鼻など五感を研ぎ澄まして患者さんに接しなければいけません。新病院は施設内の見通しがよく、機械音なども小さいので、集中しやすい環境になっています」。

「横複十字」のナゾ

ここがスゴイ  
1  
新好生館



横複十字をモチーフにした照明



好生館の前身「医学館」は佐賀藩により1834年、八幡小路に創設された。1858年、医学寮と名を改めた医学館は水ヶ江後に移転して鍋島直正公より「好生館」と命名される。これは、中国の書経にある「好生の徳は民心にあまねし」から取られた言葉。好生館の歴史は医学館から数えると約180年になる。

好生館のシンボルマークといえば「横複十字」。新病院の外観でも大きな存在感を示している。なぜ「横複十字」になったのか、はっきり分かっていない。一説によると明治30～37年ごろ、実習中の日本赤十字社佐賀支部の看護学生と区別するために、好生館の看護師の白衣や帽子には赤十字を横に2つ並べた横複十字を使用したという。実際に、赤十字と横複十字の帽子が混在した看護師の集合写真が残っている。

++  
小児科看護師  
池田 友さん



「新しい施設で勝手が分からず、まだまだ戸惑うことも多いです」と笑顔で話す小児科看護師の池田友さん。好生館での勤務は7年目。ずっと小児科を担当している。

新病院の小児科の壁には、ほのぼのとしたイラストが踊る。同科では新生児から15歳までの患者を受け入れている。「疾患で多いのは肺炎や腸炎、ぜんそくなどです。緊急の場合がほとんどです」。旧病院では小児科と同時に、お産と新生児特定集中治療室（NICU）も受け持っていた。「今は小児科だけになったので負担は軽減されました」と話す。

旧病院では、看護師は部屋で待機していたが、新病院ではカウンター式になり、子どもの動きが分かるよ

患者、両親もっとフォロー

子どもにとって、自分の症状をうまく伝えるのは難しい。また両親や周囲の状態が、症状に大きな影響を与えることもある。新しい設備と体制により、仕事に集中できる環境が整った。これまで以上にコミュニケーションを取るができるだろう。池田さんは「病気を治すことが大前提ですが、患者さんだけでなく付き添いの方の気持ちをくんだり、内面をフォローできるように心がけていきたいと思っています」と語った。

子どもにとって、自分の症状をうまく伝えるのは難しい。また両親や周囲の状態が、症状に大きな影響を与えることもある。新しい設備と体制により、仕事に集中できる環境が整った。これまで以上にコミュニケーションを取るができるだろう。池田さんは「病気を治すことが大前提ですが、患者さんだけでなく付き添いの方の気持ちをくんだり、内面をフォローできるように心がけていきたいと思っています」と語った。

病床数は変わらないが質向上!

ここがスゴイ  
2  
新好生館



4床室

サテライトキッチン

旧病院とくらへ病床数は3床減の計450床。逆に個室率は15%から35%となり、入院環境の質が向上した。職員数は300人増員の1000人。脳卒中センターやハートセンターを充実させ形成外科、歯科口腔外科などを新設した。手術室や集中治療室、緩和ケア病床も増設した。

患者の希望や好みに合わせた食事が提供できるように各階にはサテライトキッチンを整備。患者家族が利用できる宿泊室を最大10室用意している。4人部屋の廊下側のベッドサイドにも窓があるため自然光が降り注ぐ。各病室内にトイレを設置。極力、水の音が小さい便器を使用し、病室でストレスとならないよう配慮している。



## 九州最大級 62人乗りエレベータ

ここが  
スゴイ **5**  
新好生館



62人乗りエレベータ      ベッドになる待合椅子

緊急時の対策もバッチリ。ヘリポートで移送された患者をスムーズに運ぶために九州最大級62人乗りエレベータが設置されている。ボタンひとつで、手術室のある階だけに停まるように設定できる。

1階エントランスホールと2階多目的ホールには非常用の医療ガス設備や電源コンセントを準備している。普段は内装パネルで見えないが、大規模災害時には仮設ベッドを設置できるようになっている。エントランスホールには床暖房があり、ロビーの待合椅子もベッドとして使用できるなど災害初期の緊急対応も万全だ。ちなみに待合椅子は県産木材を使用し、諸富の家具関係業者の協力で作られた。災害時には入院2倍、外来5倍の患者受け入れが可能だ。

## スタッフも 大事に

ここが  
スゴイ **6**  
新好生館



研修棟      保育所

新病院にはスタッフの意見が反映されている。旧好生館の駐車場に実物と同じモデルルームをつくり、部屋や廊下の色や照明、医療ガス設備や電源の配置などを検討した。

病院内はスタッフと患者の動線を区分して、より迅速に的確に仕事ができるように設計されている。

教育・研究施設として研修棟を整備。シミュレータ室や電子カルテ研修室などを備えスタッフのスキルアップを助ける。また実習室を完備。医学生40人、看護学生80人の同時受け入れが可能になった。

職員宿舎(51戸)や保育所を敷地内に建設。職員のよりよい生活環境づくりに配慮することで、病院業務の質向上を狙っている。

「患者さんに、自宅と病院が長い廊下でつながっていると感じてもらえるように、一人ひとりに合った地元のお医者さんやケアマネージャーなどによる治療チームづくりに取り組んでいます」。相談支援センター医療相談係長の大石美穂さんは医療ソーシャルワーカーとして、患者さんの支援に取り組んでいる。

仕事は主に、がん患者さんや家族の相談に対応すること。薬や資金、在宅治療の相談、介護保険の手続きの支援などを行う。地域がん診療連携拠点病院として、その他の病院からの相談にも応える。がん以外でも医療費負担を助ける社会保障制度を紹介したり、高齢者など必要な場合には手続きに同行することもあった。

## 相談支援センター医療相談係長 大石美穂さん



## 医療相談の敷居低く

「患者さんに、自宅と病院が長い廊下でつながっていると感じてもらえるように、一人ひとりに合った地元のお医者さんやケアマネージャーなどによる治療チームづくりに取り組んでいます」。相談支援センター医療相談係長の大石美穂さんは医療ソーシャルワーカーとして、患者さんの支援に取り組んでいる。

仕事は主に、がん患者さんや家族の相談に対応すること。薬や資金、在宅治療の相談、介護保険の手続きの支援などを行う。地域がん診療連携拠点病院として、その他の病院からの相談にも応える。がん以外でも医療費負担を助ける社会保障制度を紹介したり、高齢者など必要な場合には手続きに同行することもあった。

新病院に出来た県立図書館好生館分室には、がんに関する情報にアクセスできるパソコンを設置している。「図書館のスタッフが情報が情報を探す手伝いをしてくれます。気になった文献があれば取り寄せられるので、密度の高い相談対応ができます」。相談スペースも、従来は受付カウンターと個室2カ所だったのが、個室が5カ所に増えた。医療ソーシャルワーカーも2人増員。ハードの次はソフトの充実が求められる。「医療福祉相談の敷居をもっと低くしたいです。がんだけではなく、すべての患者さんが気軽にいらっしやるような場所を作っていけたら」。

## 医局長・眼科部長 古賀隆史さん



「眼科の病気は生死に関わることは少ないですが、長寿社会における生活の質を高めることに大きく貢献します」と医局長で眼科部長の古賀隆史さんは語る。

眼科手術が専門。白内障から角膜移植まで一手に引き受ける。「佐賀は、角膜ドナーの登録率が全国最低レベル。現在、年に多くて5人ほどしか移植を受けられません。ぜひ、登録をお願いします」と呼び掛ける。新病院になり広さは2倍。眼科のドクターも1人増員された。「好生館は佐賀の最後の砦。どんな手術にも対応できるように世界最先端の機械をそろえました」。例えば眼底検査カメラ。瞳孔を開かせる目薬を使わずに検査することができる。「目薬をさすと6時間くらい瞳孔が開

## 優秀な医師確保へ環境整備

きつぱなしになり運転することができません。このカメラなら検査が終わったらすぐ車で帰宅することができます」。患者さんに負担をかけず、迅速に検査が行える。患者さんの生活の質を考える。玄関の一番近くに眼科があるのも配慮のひとつだ。

古賀さんには医局長としての仕事もある。一般的に給料が低い公立病院に優秀な人材を集めるためにはどうすれば良いか。「公立病院にはどろろ、医師が雑用や事務作業に疲弊していく状態を改善するため、スタッフを増やし治療に専念しやすい体制づくりに挑戦しています。良い機械をそろえることもそうですが、環境整備も仕事場を選ぶ上で重要なポイントだと考えています」。

「小説などの読み物以外にも、美術や歴史の本を借りる方が多いことに驚きました。入院中の息抜きだけではなく、自分を高めるために読書をする方も多いですね」と語る県立図書館好生館分室の古賀逸子さん。

同分室は病院棟1階にあり、約2500冊の図書のほか、テーブルも設置。「日野原文庫」として、好生館顧問の日野原重明・聖路加国際病院理事長の著作を集めたコーナーもある。貸出カードを作れば、入院患者だけでなく一般の人も利用できる。予約を受けた本は本館から取り寄せ、病室まで届けるサービスもある。

## 自分を高める読書多い

「話しかけやすいのか、病室やトイレ、電話の場所を尋ねる方が多いです。荷物を預けて所用を済ませ方もいらっしやいました。大きな返却ポストを運んでいたら病院の職員さんに手伝ってもらったり、いろいろな人とコミュニケーションできて楽しいです」と古賀さんは笑う。

開院して約1週間だが、1日平均200〜300人の利用があるという。碁やクロスワードや迷路などゲームの本も借りられている。「気持ちも軽くしたり、頭を使うものも人気があります。今後、リクエストの多いものはどんどん入れていきたいです。他の図書館も利用するきっかけになってもらえれば嬉しいです」。



## 県立図書館好生館分室 古賀逸子さん



## 木原鰻屋分店

木原鰻屋本店で修業をした先代が、のれん分けを受けて独立。現店主は15歳で修業を始め、先代の味を守りながら、研鑽を続けています。創業46年、地元の人に愛され続ける名店。



住所／嘉瀬町大字扇町2371-3  
TEL／0952-24-1824  
営業／11:00～20:00  
休／不定休 P／7台

## 揚子江

創業47年。本場長崎でちゃんぽんの味を学んだという『大三元』や『牡丹江』の味を、『揚子江』の先代が受け継ぎ、2代目の現店主が今に伝えている。昔ながらの味が優しく迎えてくれます。



住所／嘉瀬町扇町2405-1  
TEL／0952-23-8957  
営業／11:00～21:00  
休／不定休 P／3台

# 嘉瀬町

## Kase town Street

### ストリート

好生館の移転でにぎわう嘉瀬町。207号線近隣をよくみると、新旧たくさんのお店があります。なかには地元の人はもちろん、遠くからもファンが通う老舗店もちらほら。病院の移転とともに嘉瀬が活気づいてきている!!  
そんな嘉瀬の町で、モテモテさが目的に注目のお店をピックアップしてみました。

207

Route 207

扇町

高橋

佐賀県庁方面 →

佐賀県医療センター  
好生館



## 高橋餅本舗 福屋

旧長崎街道の西の端、高橋のもとにあるお餅屋さん。創業は約120年前で、人気の「高橋餅」は県内産のもち米を当日搗いてこし餡を包んだ昔ながらのあん餅です。その他にも冬はいちご大福、夏は水万十や白玉ぜんざいなど季節の和菓子を取り扱っています。お勧めは夕方には売り切れる事も多い、みたらし団子と黒豆もちです。



住所／佐賀市嘉瀬町扇町2430  
TEL／0952-23-8071  
営業時間／8:00～19:00  
土日祝8:00～18:00  
店休日／月2回火曜日  
P／3台(西側にも4台分契約駐車場有)

◀ 次ページへ

## 引っ越し大作戦

ここがスゴイ  
7  
新好生館



旧好生館から出る搬送車両

新好生館に入る車両

移転作業の最難関が入院患者の引っ越し。水ヶ江から嘉瀬までの約4.5キロを無事に搬送するため、スタッフは、視察やリハーサルを繰り返し入念な準備を行った。

新病院に移るのは99人。他病院の協力により事前に数を絞った。搬送は8時半スタート。九州・山口から集められた搬送車22台がピストン輸送する。重篤な患者のために佐賀広域消防局の救急車も出動した。

患者移送には職員約800人が動員された。ゼッケンを付けたスタッフが細心の注意を払い、患者を所定の順番で移動させる。大きなトラブルもなく、予定より早い午後2時ごろ、全ての患者が新しい病室に落ち着いた。

## 眺め抜群!! 最高の環境

ここがスゴイ  
8  
新好生館



屋外リハビリ施設 カラスやハトの飛来防止剤

新病院の大きな魅力のひとつに周辺環境の良さがある。病室からはこの時期、麦秋を楽しめる。金色の海を風が渡っていく様子は何時間見ても飽きない。

建物には屋上庭園が数カ所ある。リハビリルームに併設されている庭園には、陸上のトラックのような柔らかい素材のゾーンや、ゴロゴロとした丸い石が敷かれたところなど、いろんな効果が考えられた設備がある。外の光と風を感じながらリハビリに励めばきっと回復も早まるはず。

好生館の周囲には高い建物が少ないため、鳥の休息所となりやすい。せっかくの新病院がハトのフンで汚れるのは見栄えだけでなく衛生上も問題がある。屋上庭園もカラスの巣になっては危険だ。そこで屋上にはカラスやハトの飛来防止剤を4000個設置した。効果は抜群。いまのところハトやカラスの姿はないという。

「患者さんやご家族は心の痛みを持って病院にいらしゃいます。寄り添い、気持ちをほぐすのが私たちの役割です。新病院に移転して、建物、設備、スタッフの能力はアップしています。私たちもお一層、病院に関わるみなさんの気持ちを温かくするよう活動していきます」と佐賀県医療センター好生館ボランティア会長・緒方光子さんは決意を新たに語る。

同ボランティアは現在、会員60人以上。病院内で患者さんを案内したり、緩和ケア病棟の患者さんやご家族との交流、アニマルセラピー、小児科訪問などを行っている。

新病院になり案内ボランティアも建物の配置などを覚え直さなくてはいけない。担当する正島洋子さんは「ゴールデンウィーク中に案内ボランティアのシミュレーションをしました。精算方法も変わって覚えなくてはならないことも多いです。患者さんの中には、困っているけど、中々言い出せないような方もいらっしやいます。一緒に探しましよるか、と手を差し伸べることが私たちの役割」と語る。

緩和ケア病棟は最上階の8階にある。喫茶スペースには対面式のキッチンが備えられていて、サッシを開けるとテ

## 佐賀県医療センター好生館 ボランティア



## 患者さんに寄り添う

ラスになっており、外の景色を楽しむことができる。元々は毎週金曜午後「応援ボランティア」を招いてイベントを開催しており、ボランティアの出すお茶とお菓子を楽しみながら、演奏会などを行っていた。医師やスタッフの要望により月、水曜日にも活動を拡大。お茶を楽しみながら患者さんやご家族とお話しようになった。担当する榎木みどりさんは「緩和ケア病棟でのボランティアを始めたころは、昼間も付き添われている家族が多かったが、今は1人病室で過ごすケースをよく見かけます。ボランティアの役割が大きくなっていくと感じます」と話す。一緒に活動する森智子さんは「イベントではバイオリンやギターの演奏、手品などいろんな出し物があります。実習生や患者さんが披露してくれることもあります。毎月の行事があるので、家には感じられない季節を楽しめることができます。楽しんで参加しています」と語る。

患者さんやご家族に側に立って、病院側との橋渡しを務める。新しい病院が温かい気持ちで満たされるように。ボランティアのメンバーは笑顔で患者さんを手助けする。



# 嘉瀬町

Kase town Street

## ストリート



たかなめしも  
根強い人気!!

佐賀県庁方面 →

### かせ食堂

創業44年の知る人ぞ知る老舗の食堂。創業当初は、麺類が中心だったがお客様のリクエストにより現在では約40種類ものメニューがある。中でもオムライス、どこかおふくろの味がする懐かしい味だ。また人気のたかなめしもボリューム満点でガッツリと楽しめる。夫婦仲良く、笑顔で営む老舗食堂をこれからも応援していきたい。



住所/佐賀市嘉瀬町中原 1976  
TEL/0952-25-0893  
営業/11:00~21:00  
休/毎週月曜・火曜 P/5台

### サガ・ビネガー

サガ・ビネガーでは、安心で安全なお酢をお届けするため、地元佐賀及び九州で収穫された安全な食材を使用して酢造りを行っている。佐賀産たまねぎを発酵、熟成させた純たまねぎ酢、おいしい佐賀のお米と大豆で造った熟成玄米みや果実をブレンドしたビネガー飲料など佐賀ならではの商品に注目したい。



住所/佐賀市嘉瀬町中原 1969  
TEL/0952-23-6263  
営業/8:00~19:00  
休/不定休 P/10台



### クルマ買取 ベリーベリー 家族との時間を車でもっと楽しもう

嘉瀬町には自動車のディーラーが多いことから自動車関連の会社が多く存在する。昨年オープンしたクルマ買取ベリーベリーは、その中でも非常に面白い取り組みを展開している。なんと、全国的に有名なTポイントが貯まる使えるお店だ。現在も、Tポイントのプレゼントキャンペーンを実施するなど、購入者には嬉しいサービスである。今後どんな新しいサービスを展開をするかが、気になるところである。

住所/佐賀市嘉瀬町大字荻野 2492-5 TEL/0952-22-8962  
営業/10:00~20:00 休/毎週火曜 P/あり

### 満州屋



創業80年!昔からのファンも多い老舗が、嘉瀬町に復活。先代の店主が屋台で営業を始めて以来常連客に愛され続ける手作りの餡は絶品です!

住所/佐賀市嘉瀬町荻野 237-1  
TEL/0952-23-6869  
営業/12:00~20:00  
休/火曜 P/5台

佐賀ん街の老舗が嘉瀬に移転



Route 207

207

森林公園前

嘉瀬元町

扇町

### 森林公園

### 大人から子どもまで一日中楽しめる!!



### 遊道楽 嘉瀬店

ボウリング・カラオケ・ダーツ・ビリヤード・卓球・ゲームセンターの複合施設である「遊道楽 嘉瀬店」。ボウリングは1ゲームが、なんと100円でプレーできる!! 最近では、ミニ四駆ブームにともない、県下有数の大型コースも設置した。また近日中にはラジコンコースも増設する予定とのこと!! その他、コスプレのイベントや痛車の展示なども、これからおこなっていく予定なので、マニアには必見だ!! 大人から子供まで、おもいっきり楽しんで遊べる遊道楽から、今後も目が離せないこと間違いナシだ!!

住所/佐賀市嘉瀬町大字中原 2488-1  
TEL/0120-588-080  
営業/24時間営業  
※新館のみ9:00~24:00 営業  
※条例により入場規制あり  
〈16歳未満18:00まで/18歳未満22:00まで〉  
休/年中無休 P/500台

### マルフク カレーの名店 嘉瀬に移転



フルーツ風味が病みつきになる名物カレーの店が移転オープン。旧県立好生館があった水ヶ江で約45年親しまれていた名店「マルフク」が新病院と一緒に嘉瀬に移転。開院日と同じ5月7日にオープンした。「建物の老朽化もあり決断しました。どうせなら好生館と一緒に場所が良いと思って」と店主の福田信二さん。

木材を基調にした新店舗は以前より明るいイメージ。少し座面の低いオレンジ色の椅子やイエローのテーブルなどは旧店舗のまま。店舗の一部にはガラス絵の看板や水槽などが飾られている。青春時代を思い出す人も多いのではないかと。移転を機に要望が多かったランチセットを開始。日替わりトッピングのカレー、デザート、こだわりコーヒーが付いている。

住所/佐賀市嘉瀬町大字中原1964-1 TEL/0952-26-6340  
営業/11:00~15:30, 17:00~21:00 P/あり



### スズキアリーナ佐賀南部 佐賀スズライト販売株式会社

264号線沿いに店舗を構え50年。話題のソリオやスイフトをはじめ、パレット・ワゴンR等、今人気のSUZUKI車もフルラインナップ。嘉瀬ではディーラーや中古車販売がひしめくなか厳選された高品質車を常時50台以上!! 豊富な品揃えできっとあなたに合う一台が見つかります。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

住所/佐賀市嘉瀬町大字扇町 2490 番地  
TEL/0952-22-9111 営業/9:00~20:00  
休/年中無休(お正月・お盆を除く) P/有